

大原中だより

さいたま市立大原中学校
TEL 048-831-5397
FAX 048-835-1357
第 10 号

校訓 「歴史を拓く」
学校教育目標 はつらつとした生徒、地域に輝く学校

令和 2 年 2 月 3 日 (月)

メールアドレス:ohara-j@saitama-city.ed.jp ホームページ:http://ohara-j.saitama-city.ed.jp/

「希望あふれる大原中づくり推進活動（可能性を信じて）！」

校長 小林 広利

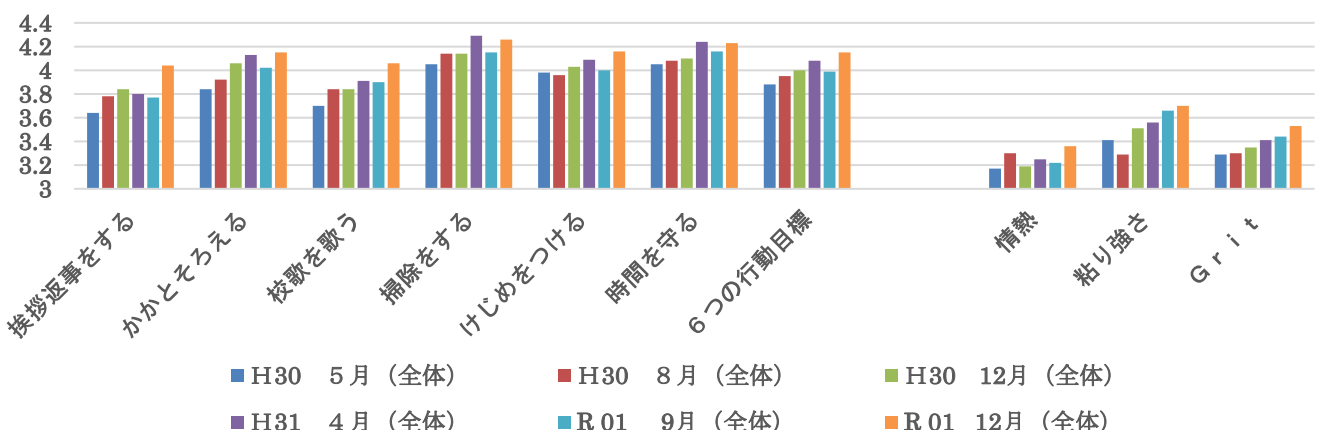
昨年度より実施した「希望あふれる大原中づくり推進活動」は2年目を終えようとしています。この2年間、子どもたちには、自分の人生を切り拓くキーワードとして「G r i t（やり抜く力）」とあいさつを始めとする「6つの行動目標」の重要性を説き、授業、行事、部活動など教育活動のあらゆる場面を通して全教職員一丸となり指導してまいりました。やり抜く力は、「自分を信じて自分を伸ばす力」や「他者を受け入れ協働する力」と一体となって育成すべきものと考え、新学習指導要領で示された「深い学び」「主体的・対話的な学び」と関連付けながら各教科の授業研究も進めてまいりました。その結果、「G r i t」という言葉は少なからず大原中学校の子どもたちに浸透しつつあります。

さて、下のグラフは、「Grit 並びに6つの行動目標調査」の最新の結果です。2年間で6回の調査を行いました。過去5回の調査では、その都度、結果を教職員と生徒に示して反省と対策を促してまいりました。生徒会本部役員、各種委員や係、行事实行委員、部活動など多くの生徒の皆さんの積極的な取組により、今回の最新調査ではいずれの項目にも伸びが見られます。素晴らしいことだと思います。

現在、3年生は卒業後の進路決定に向けた大詰め新时期です。2年生は館岩自然の教室に向け、1年生は未来くるワークを終え、どの学年も集大成としてのまとめ新时期です。今回の調査結果を意識の向上としてのみ捉えるのではなく、実践に移すことで皆さんにはまだまだ大きな伸びが期待できます。学力の向上、豊かな人間性、健康な体力、そしてコミュニケーション力の向上を目指し、校訓「歴史を拓く」、学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」のもと、一人ひとりが自分なりの目標をもち着実に前進していきましょう。

また、保護者の皆様・地域の皆様には、今後も学校だよりやPTA定例役員会だより等通じて本校の教育活動をお知らせいたします。また、多くの皆様のご協力のもとに一新することのできました学校ホームページも十分活用して広く情報を発信しご意見をいただく中から、コミュニティースクールの基盤づくりを進めてまいります。今後とも子どもたち一人ひとりの可能性を信じて、本校教育活動にご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

Grit 並びに6つの行動目標調査



1 学校評価結果から

	はつらつ 学校生活	地域に輝 く学校	6つの行 動目標	学習・ 授業	学校行事	生徒指導 教育相談	体力向上 部活動	あいさつ そうじ	マナー・ 公衆道徳
生徒	90.0 %	81.7 %	86.1 %	83.0 %	94.3 %	85.4 %	84.4 %	95.9 %	96.3 %
保護者	85.8 %	85.3 %	71.9 %	66.8 %	94.7 %	76.7 %	92.3 %	87.5 %	70.0 %
教職員	95.0 %	97.0 %	85.5 %	96.3 %	97.3 %	93.1 %	97.0 %	80.0 %	98.5 %

[アンケートで肯定的な回答の割合]

[上記タイトルに呼応した質問例]

【はつらつ学校生活】 生徒は毎日、明るく楽しくはつらつと学校生活を送っている

【地域に輝く学校】 様々な活動を通じて地域に親しまれる学校になっている (教職員：地域連携を含む割合)

【行動目標】 「6つの行動目標」は保護者に伝わっている (生徒・教職員への質問：生徒はできていますか)

【学習・授業】 学校は一人ひとりの生徒が分かるように学習指導をしている

【生徒指導・教育相談】 学校は一人ひとりを大切にし、尊重しながら教育活動に取り組んでいる

【体力向上・部活動】 学校は健康維持・体力向上に進んで取り組んでいる (生徒・教職員：部活動の取組含む割合)

【マナー・公衆道徳】 生徒は学校外で交通マナーや公衆道徳を守っている (教職員：道徳指導としての評価の割合)

学校評価へのご協力ありがとうございました。

コミュニティースクール (学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む教育) の基盤づくりを推進するにあたり、学校と保護者や地域の皆様がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させながら協働して子どもたちの豊かな成長を支えていくことはとても重要なことです。保護者の皆様からいただいたご意見を真摯に受け止め、今後もよりよい教育活動を目指してまいります。

[※本校の目標やビジョンについては「希望あふれる大原中づくり推進活動」に示してあります。学校ホームページでご確認ください。]

上の表では、いくつかの特徴的な項目において生徒・保護者・教職員の肯定的回答の割合を紹介いたしました。特に、ここで明らかになったそれぞれの差について注目するなどして、今後、皆様方と協議を重ねる材料となればと思っています。例えば、以下に3点の内容について提案いたしますので、お考えいただければ幸いです。

学習・授業につきましては、保護者と教職員との差が30%程度ございます。本校では全教員が授業公開を行ってお互いに授業を見合い、指導者を招聘しての研修会も行って授業力向上に取り組んでいます。しかし、生徒の深い学びを促す授業をどう構成するのか、個別最適化された学習環境をどう整えるのか、家庭学習とどのように連動されるのかなどの課題を抱えています。この点につきましては、今後校内で議論を深め、全体保護者会等で提案を行うなどして学校が中心となって取り組む課題と認識しています。

マナー・公衆道徳につきましては、今後一層の指導の必要性を感じています。特にこの地域の交通事情から、交通マナーに関する苦情が年間に何度か学校に寄せられます。その都度、必要に応じて教職員が現場に行き対応しているところです。「道に広がる」「注意しても反省を示さない」などのご指摘です。交通マナーは命に関わることですので学校でも生徒の意識を高めてまいります。主体は家庭が責任もって教えていただく内容です。今後、三者で協力しマナー・公衆道徳の向上を目指していきたく思いますのでご協力をお願いいたします。

また、視点を変えて大原中の子どもたちの行動と意識の関係を捉えてみます。例えば、学校評価で「あいさつは大切ですか」と問うと95.7%の生徒が「そう思う」と答えています。しかし、Grit調査では「実践できましたか」と聞いているので「実践できた」と感じている生徒は77.4% (昨年度末75.6%) で、価値意識と実践行動の差は18.3ポイント (昨年度末20.6ポイント差) あることが分かります。6つの行動目標のどの項目でも価値意識が実践行動を上回っていますので、子どもたちはやらされているという感覚ではなく、分かっているけれども実践に移す難しさを感じています。勉強も同じことで、その価値は十分に分かっているけれども、毎日コツコツと実践するのは難しいものです。意識を行動に変える力は「Grit (やり抜く力)」です。大原中の生徒たちはこの一年でやり抜く力も着実に伸びています。勉強・行事・部活動など様々な挑戦とやる気が成果と成長につながることを信じて、子どもたちが行動に移せるように導くのは、学校・保護者・地域の連携・協働の力だと思います。

現在本校では保護者・地域の皆様の環境整備への支援、各種行事や部活動への協力、交通安全指導や放課後の巡回、地域行事での子どもたちへの心配り、様々な資料の作成や配付など、温かなご支援をたくさんいただいております。この場を借りてお礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくご協力申し上げます。